

告 辞

2023年度学位授与式にあたり、青森市長 西 秀記（にし ひでき）様をはじめ、各位のご臨席を仰ぎ、式を挙行できますことは、私ども青森公立大学 教職員一同にとりまして、この上ない慶びでございます。

お忙しいなか、ご出席いただきました、保護者の皆様ならびに御来賓の皆様、またオンラインでご視聴いただく保護者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生、修了生のみなさん、ご卒業、ご修了、誠におめでとうございます。教職員を代表して心よりお祝いを申し上げます。また皆さんを支えてこられた、保護者の皆様、関係者の皆様にも、心より感謝とお祝いを申し上げます。

今から4年前、当時未知のウイルスだった新型コロナの急速な感染拡大によって、入学式を断念せざるを得ませんでした。それだけに本日、学位授与式を短縮せずに挙行できますことは、教職員にとりましても、この上なく嬉しいことでございます。

コロナ禍で経験したように、私たちは、いつ、何が起きるかを正確には予想することはできません。皆さんは大学生活の大半をコロナ禍の制限の中で過ごし、多くの困難に直面するたびに、自ら努力と工夫を重ね、対処してきたと思います。入学式はできませんでしたが、オンライン授業中心だった多くの大学の中であって、クラスターを発生させることなく、対面授業を続けることができました。これは皆さん一人ひとりが状況を冷静に受け止めて、必要な感染対策をしっかりと行ってきた成果であり、皆さんをたいへん誇らしく思います。

青森公立大学は、地元（じもと）青森のあついご支援によって1993年に開学しま

した。開学当初からの教育方針の1つは、「常に『なぜ』という問いを学習者自身に課す」ことです。

現実の世の中でも、まさに『なぜ』を問うべき事象があらゆる場所で生じています。みなさんが在学時代に身につけた、「なぜ」を問う力を使って、社会に出てからも、世の中の問題に取り組んでいってください。

もう1つ、大学で学んだことだけで、全てを解決できる訳ではありません。大学時代に身につけた考え方や、得た知識、経験は、皆さんが社会人として直面する課題に取り組むための、大きな力とはなりますが、実際に取り組んでみると、まだまだ足りないと感じるでしょう。この足りないという感覚を大切にしてください。そして今後も学び続けるようにしてください。これから社会人としての一步を踏み出しますが、それは新たな学びを始めるということです。

結びに、本日、青森公立大学を巣立つ皆さん、一人ひとりが、健康で幸せな、そして希望に満ちあふれた未来を切り拓かれることを、心より祈念して、2023年度 学位授与式の告辞と致します。本日はご卒業、ご修了、誠にありがとうございます。

2024年3月16日

青森公立大学 学長 神山 博